

経営比較分析表（平成29年度決算）

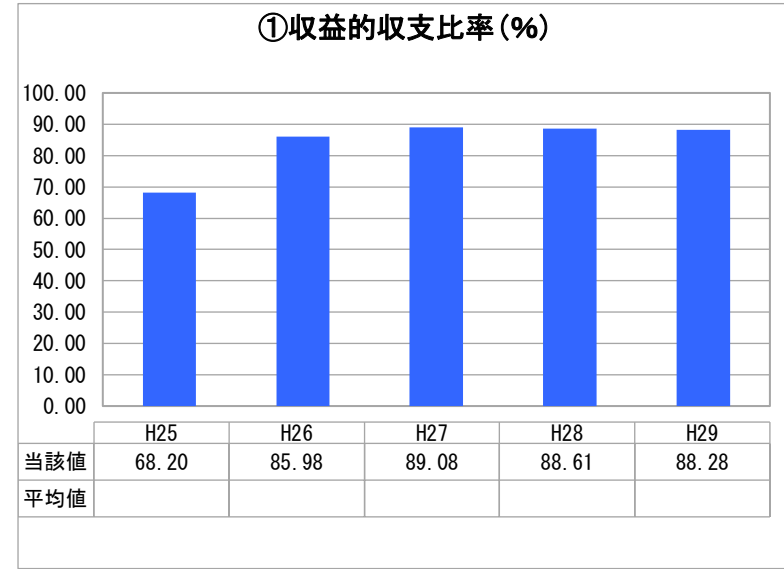
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	84.81	66.54	2,732

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,756	253.88	93.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
20,002	8.18	2,445.23

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



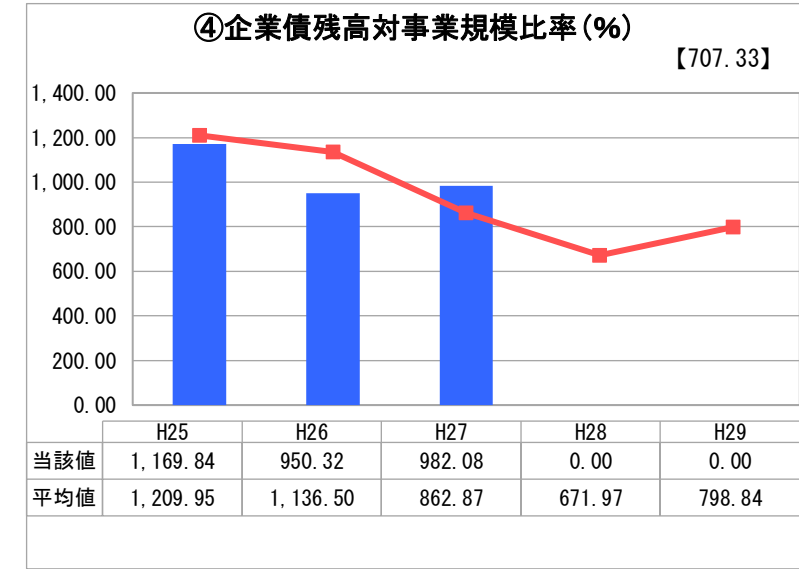
「単年度の収支」



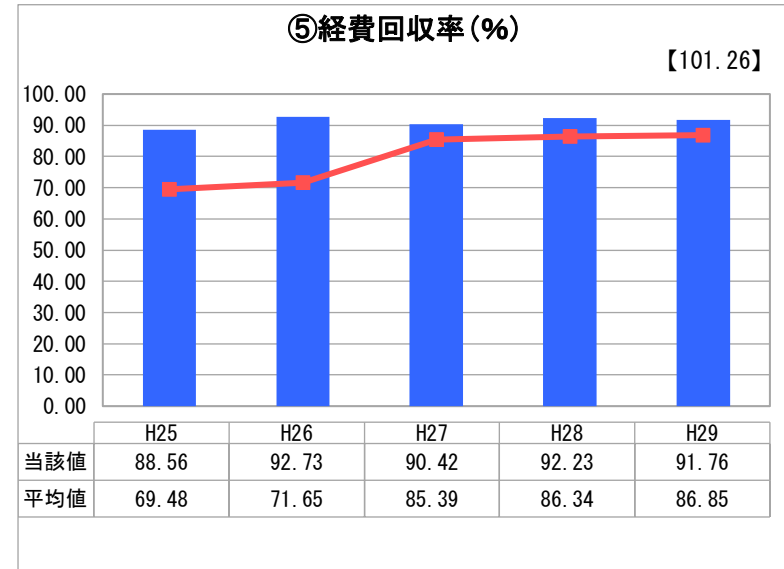
「累積欠損」



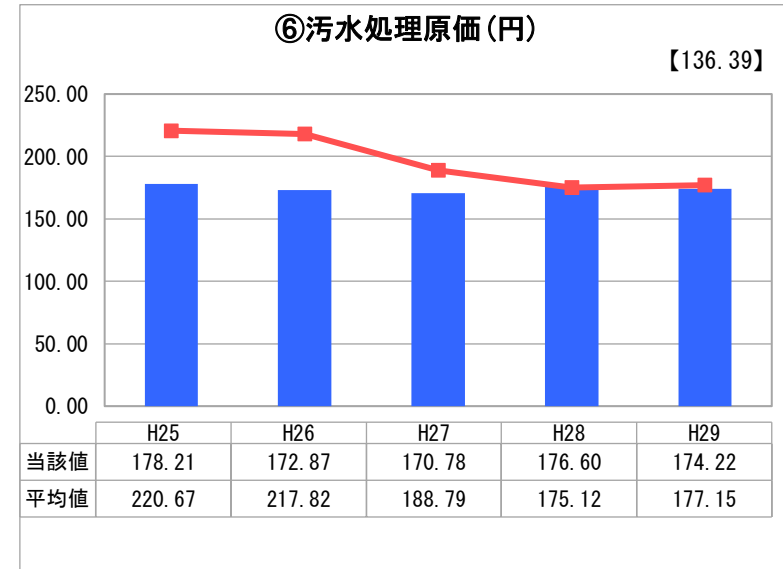
「支払能力」



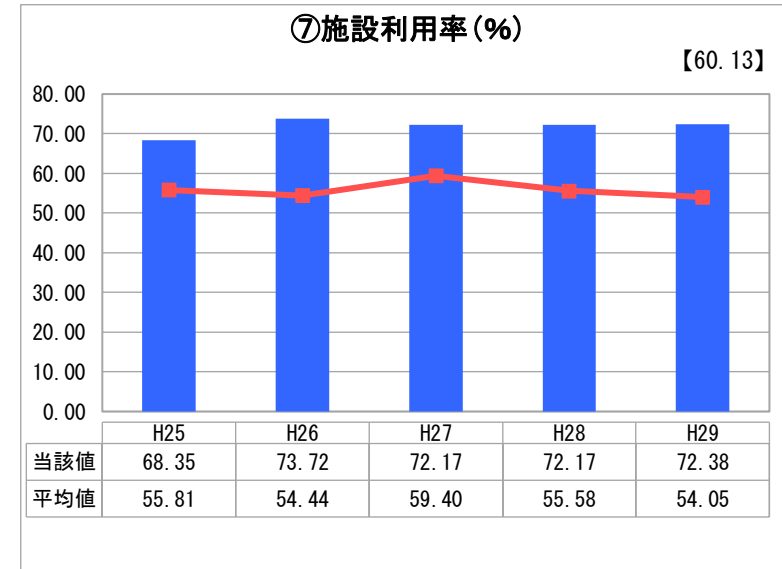
「債務残高」



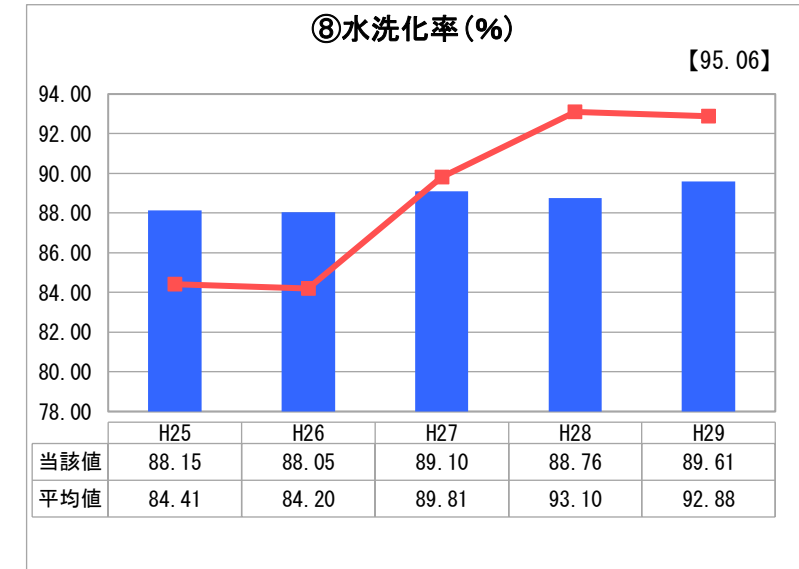
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

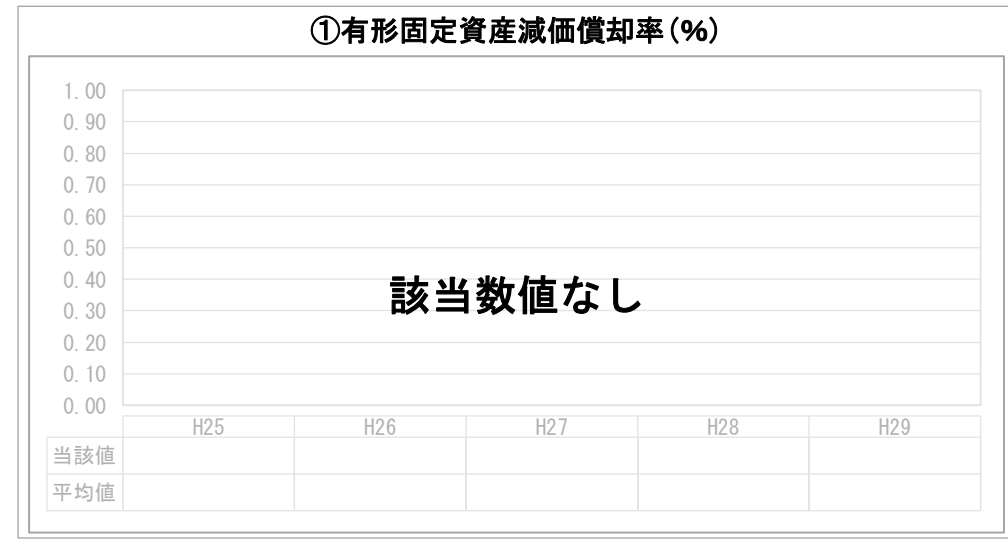


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

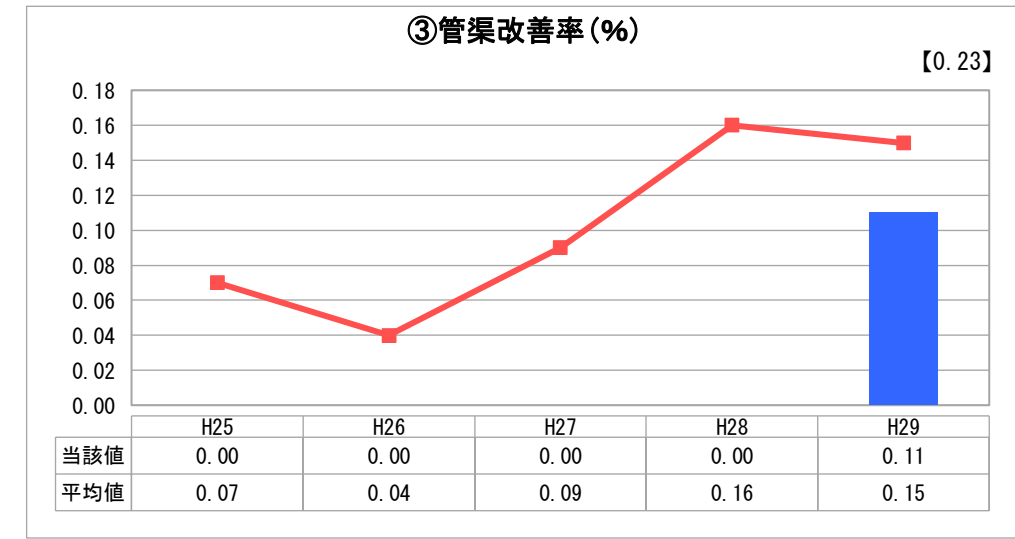
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」は、地方債償還元金が微増しているため減少しております。今後は、維持管理費等の増加が見込まれることから、料金などのあり方などの見直しを図り、100%以上を目指していきます。

④「企業債残高対事業規模比率」は、料金収入に対する地方債残高の割合であるが、本市は、企業債残高は一般会計繰入金からの負担としており、0%となっている。

⑤「経費回収率」は、使用料は減少したことにより、前年と比較して微減しています。

⑥「汚水処理原価」は、有収水量が微増したことにより、昨年比より微減している。

⑦「施設利用率」は、融雪水の浸入による不明水が多いことから、有効な対策を考えていく必要があります。

⑧「水洗化率」は、水洗化人口及び処理区域内人口ともに減少しており、水洗化率は大きな変化はない。料金収入を確保するために、水洗化率100%を目指して下水道接続促進を続けていきます。

2. 老朽化の状況について

③「管渠改善率」は、本市の下水道供用開始が昭和60年のため、管渠も約35年程度しか経過していないため現在は管渠更新する必要はありません。

全体総括

勝山市の下水道事業は、下水道使用料収入が長期的に減少していくことが予想される中、維持管理費が今後増加していくこと、農業集落排水事業の統合を見込む必要があることから、今後厳しい経営環境に置かれることが予想されます。適切な維持管理に努め、必要な施設整備・更新を着実に推進し、将来の下水道サービスを安定的に提供していくための費用を見込みながら、引き続き財政基盤の強化に努め、中長期的な視点に立って財政運営を行ってまいります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。